【授業科目】臨床薬理学

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
大井　一弥、吉田　和枝	1 年次 前　期	選択	2	30	講義	巻末 掲載

授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	1) 医療用医薬品および一般用医薬品の特性を学び、看護に必要な薬物治療の重要性について理解を深める。 2) 各種症例を通じて急性期および慢性期の薬物治療を中心に薬効発現や薬物有害事象について理解を深める。 授業の中でディスカッションの時間を設けて、疑問点は必ず解消するように工夫を行う。 課題レポートは必ずコメントを記して返却することとする。
授業の位置づけ	本大学院のディプロマポリシー②、③、④の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1) 診断から薬物治療の施行に至るまでの病態を考慮した適正な治療薬の選定、および投与後の患者モニタリングなど治療プロセスを理解する。 2) 患者は小児・成人・妊婦・高齢者というようにライフステージが異なるため、薬効および薬物有害事象に個人差が生じることを理解する。 3) 医薬品の安全性を確保するために、重複投与や過少・過量投与などを防ぐための患者服薬管理能力の向上を図る専門的な看護技術の必要性について理解する。
時間外学習に必要な内容・時間	指定した教科書、参考書および配布資料を事前に通読して講義に臨むこと(90 分)
	※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1 回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習　1 時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	1　薬物治療学概論（薬効発現と薬物有害事象） 2　代表的薬物有害事象への対処法 3　治療効果に関わる服薬管理 4　薬効・用法および日周リズムによる治療への影響 5　急性期疾患薬物治療 6　慢性期疾患薬物治療 7　感染症治療と患者モニタリング 8　がん化学療法と患者モニタリング（1） 9　がん化学療法と患者モニタリング（2） 10 肝臓疾患および腎臓疾患を有する患者の薬物治療 11 皮膚疾患における薬物治療 12 妊婦・授乳婦の薬物治療 13 新生児・小児の薬物治療 14 高齢者の薬物治療 15 薬理と看護の役割（総括）
	1～14回 大井 15回 吉田
評価方法 評価基準	プレゼンテーション、レポート、授業参加態度などを合わせて総合的に評価する。

教科書	臨床薬理学　羊土社　　2017	参考書等	好きになる薬理学・薬物治療学　講談社 2022